



## ① 今昔ペデ南下旅



筑波大生とは切っても切り離せない存在、ペデストリアン・デッキ、通称ペデ。ここでは、現在のペデの様子を皆さんにお伝えすることで、当時と変わったもの変わらないもの、筑波大学に対する懐かしさや新たな発見を感じてもらえたらと思っています。今回はペデ最北端の一の矢宿舎です。



1号棟(奥)と3号棟(手前)  
3号棟は改修され、新たな姿に生まれ変わった。

約30年前の写真と比較してみると、当時はまだ小さかった木々が今では大樹へと成長しており、時の流れと共に筑波大学の歴史を感じ取ることが出来ます。

また、平成21年度に改修工事がスタートしましたが、建物の位置や形は当初と変わっていません。

たとえ外観が変わったとしても、「新しさ」の中にみなさんが当時の光景を思い出せる面影が残っています。



当時は小さかった木々が、今では留学生宿舎をも隠してしまうほどに成長した。青々とした葉が初夏の到来を感じさせる梅雨休みのある一日。

次回も一の矢宿舎周辺をお届けする予定です。亀らしくゆっくりと南下していきます…。

(人文・文化学群 日本語・日本文化学類 亀川かすみ)

## ② 筑波大学ニュース



『消える三学期制！？ 二学期制導入へ』

開学以来、筑波大学の特徴であった三学期制が見直され、2013年度からの二学期制導入が決まった。

三学期制から二学期制への移行をスムーズにするため、二学期制導入後は1学期を3つのモジュールに分け、3と2の最小公倍数である6モジュールで1年間の授業を行う予定となっている。1モジュール当たり5週授業を行い、モジュールを組み合わせることにより従来の10週単位から15週単位での授業への円滑な移行を狙う。

75分授業は継続される方針だが、二学期制移行と同時に成績評価方法の変更とともにGPA\*の全学的導入や、単位計算補助機能の追加などを含むTWINS\*の全面改修などの様々な方針変更も行われる予定である。

この大規模な改革に対する学生の意見は賛否両論である。二学期制になって夏休みが8月～9月になることで、他大学の学生との交流やインターンシップへの参加が容易になると喜ぶ学生もいる。しかしその半面、帰省や旅行、運転免許合宿に参加する場合、ハイシーズンに行くしかなくなってしまう。また、これまで7月に行っていた短期実習や語学研修、合宿なども多い。それらがなくなってしまうのではないかという不安の声も上がっている。

こういった学生の意見も考慮して、改革によって学生生活がより良いものになるよう、スムーズな移行を行ってほしいと思う。

(人文・文化学群 日本語・日本文化学類 野川佳奈代)

注

GPA : Grade Point Average

特定の方式により各科目の成績を点数化して算出する学生の成績評価値の1つ(一般的には5段階評価4点満点で計算)。留学などの際の指標にもなる。欧米では一般的だが、日本でも東京学芸大学や明治大学など導入する大学が増えている。

TWINS : Tsukuba Web-based Information Network System

科目履修やアンケート、単位修得状況確認などをウェブ上でできる本学の支援システム。2002年より運用。

### ◎3 臭ガイド



飛行機に乗ったら、降りるべき専用滑走路がなかったようなものだ。社会学者ウルリッヒ・ベックは、福島第一原発の事故について、「リスクに対処するための仕組みがない」と語った。  
(朝日新聞 2011. 5. 13)

気候変動、グローバル化した市場、テロリズムといった時間や空間に限定されないリスクを、ベックは新しいタイプのリスクに分類する。記憶に新しいリーマンショックでは、日本経済も打撃を受けた。冒頭はリスクの新しさを表したベック自身の言葉だ。

なにも、新聞に載る大事件だけがいわゆるリスクではない。生涯学習論の演習で、個人化と自己責任の肥大化を学んだ。

近代化によって、学校システムや社会保障制度が整い、人々は能力によった自由な職業選択が可能となった。しかし伝統的な家族制度や人間関係は希薄になったことで、個人化が進む。国家の公的な社会保障は、福祉国家化しつつあるが、すべての個人を救う仕組みではない。失業をはじめとしたリスクが、あたかも個人の運命のごとく捉えられる構造ができあがる。

ベックの言葉を借りると、「(リスクは) さしあたりしばしば通りすがりの者のひそかな足音とともに人生に忍び込み、言ったりきたりを繰り返して、いつの間にかそこに住み着き、それから何とかなるはずなのにダメだったという重苦しい気分とともに人間の心の奥に巣を作るのである。」(危険社会 p178)

どこまでリスクを負う自分を受け止められるか、あるいは、見えないリスクまでもが自分の一部なのであろうか。そう考えて、少し怖くなった講義であった。

進路の決定を猶予された学生にとって、降りるべき滑走路とは「社会」であろう。無事に着地している先輩方を、わずかに羨ましく思いつつも、永遠に飛び続ける飛行機のことを考えてしまう。

(人間学群 教育学類 山田航平)

#### ④ ゆるっと、つくば～癒され手帳～

##### きまぐれにゃんこの出会い

大学生って、それなりに大変。たまには勉強のことも将来のことも忘れたい。ああ、癒されたい。もしかして、この筑波大のなかにも、私を癒してくれるものがあったりして。のんびり探してみようかな。ということで、とりあえず“癒し”を求めて大学内をふらふら。なんとなしにやってきたのは皆さんもご存じの「平砂宿舎」。こちらは最近、改装工事があったもよう。なんとも言えない外壁の色遣いに首を捻りつつ、出会ったのは、一匹の猫。



猫いいですね、猫。つくばにゃんこの人懐っこさといったら。遠慮なく膝の上に飛び乗ってきます。戯れること一時間、そろそろお暇いたしましょう、と思いきや、行く手を阻むにゃんこ。そのあとすてすて付いてきてくれました。うーん、帰れん。しかし気付けばにゃんこの影はありませんでした。猫は気まぐれである。



- ・ ついに創刊です。読んでほっこりできるような記事をお届けできるよう頑張ります！（野川）
- ・ 記事を書くのって難しい…。でも皆さんに楽しんで頂けるようにこれからも頑張ります！（亀川）
- ・ いよいよ創刊しましたね。私、こんなんでいいのか、と思いつつ。猫可愛い。（小林）
- ・ タイトルロゴのために校内で昼休みに自分の自転車を撮影。不審な目で見られました。（関崎）
- ・ いよいよ創刊。まったく気楽に頑張っていきます。（笑）（馬場）
- ・ 正直、あまり重要ではない情報たちですが。読者の皆様になにかしら響くようなメルマガを目指します。皆様からの反響をお待ちしております。（山田）
- ・ 今回はなかなか参加する機会がありませんでしたが、次回からはもっと頑張ります！（河原）

🍀 編集・発行  
「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ



🍀 ご意見・問い合わせ先  
国立大学法人筑波大学総務部総務課（卒業生ネットワーク）  
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1  
TEL 029-853-2030 FAX 029-853-6019  
[gakuyu@un.tsukuba.ac.jp](mailto:gakuyu@un.tsukuba.ac.jp)

🍀 配信停止をご希望の方（卒業生ネットワーク）  
下記メールアドレス宛に『配信停止希望』の旨明記し、送信してください。  
[gakuyu@un.tsukuba.ac.jp](mailto:gakuyu@un.tsukuba.ac.jp)

=====  
メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。  
Copyright (C) 2011  
University of Tsukuba. All Rights Reserved.  
=====